

人間関係学科

主要科目の特長・科目ごとの目標等

「化粧の文化史」

人はなぜ化粧をするのか、人間にとって化粧はどのような意味を持つのかを、化粧の歴史を通じて時代の美意識をたどりながら考察を進める。とくに日本の化粧史に的を絞り、必用な場合には異文化と比較しながら授業を進める。単に化粧の歴史を知るにとどまらず、受講者が自分の化粧や美に対する心構えや価値基準を反省することを目的とする。

「コミュニケーションの心理学」

服装や立ち居振る舞いなどの非言語的なコミュニケーションへの理解を深めるとともに、行動心理学や学習心理学などの知見を踏まえ、言語的なコミュニケーション能力の発育形成について考察する。コミュニケーションの多様性を理解すること、自己の無意識領域に迫り「自己洞察」する方法を学ぶこと、「アサーション」「傾聴」の技法について理解を深めることなどを目標とする。

「セルフプロデュース」

現在、メイクアップやファッションにおいて、自己表現を自由に楽しむ現象がうかがえる。自己演出や身体装飾の観点から、身体装飾・対人印象・印象形成・印象分析・自己認知・パーソナリティ・ビジュアルコミュニケーション・ビジュアルプレゼンテーションなど、「個」としての様々な自己演出や印象形成方法を学ぶ。

「社会学研究」

日本の戦後史を文化社会学的視点で捉え直し、そこから、現代の私たちの社会を問い直す。現代社会については、「消費」「格差」「グローバリゼーション」というテーマを通して、その問題を考える。戦後日本の社会史を理解すること、そこから得た知見を用いて、現代社会の抱える問題について自ら思考する力を獲得することが目標である。

「現代社会総合講座」

古典的名作や、近年、話題作となった映画を取り上げ、作品中に描かれている現代社会の諸相やさまざまな問題について考察する。各教員の講義をキーノートに、学生が主体となるパネルディスカッションをとおして議論を掘り下げる。作品から読み取れる諸問題について指摘・解説し、学生参加型のパネルディスカッションを行うとともに、学生間の議論をファシリテートする。

「人間関係ゼミ」

人間関係専攻の諸領域を研究するに際して、どのような理解と発想が可能なのか、各自の問題関心に即して学術的な視座を身に付け、主体的に考察する思考力を習得することを目標とする。受

講者による報告とそれにもとづくディスカッションを基本形式とし、自らの問題関心を掘り下げ、「問い」を立て、情報を集めその「問い」にじっくりと考察をめぐらすといった知的営みに取り組む。最終的には学術的論文に必要な形式要件を理解し、論述・文章表現のスキルを高めるまでを目標とする。